

事務事業及び予算の執行実績

(令和5年度分「一部、令和6年度分を含む」)

静岡県立沼津工業高等学校

静岡県沼津市下香貫八重 129-1

電 話 055-931-0343

F A X 055-934-3016

目

次

事務事業の概要	1
在籍生徒調	32
入学志願者及び入学者数調	34
卒業生の動向調	36
生徒の状況	38
委託料に関する調	40
負担金支出調	42
建築工事調	44
行政財産貸付・使用許可調	48
職員調	49
職員の年齢調	53
健康管理	54

事務事業の概要

1 概 況

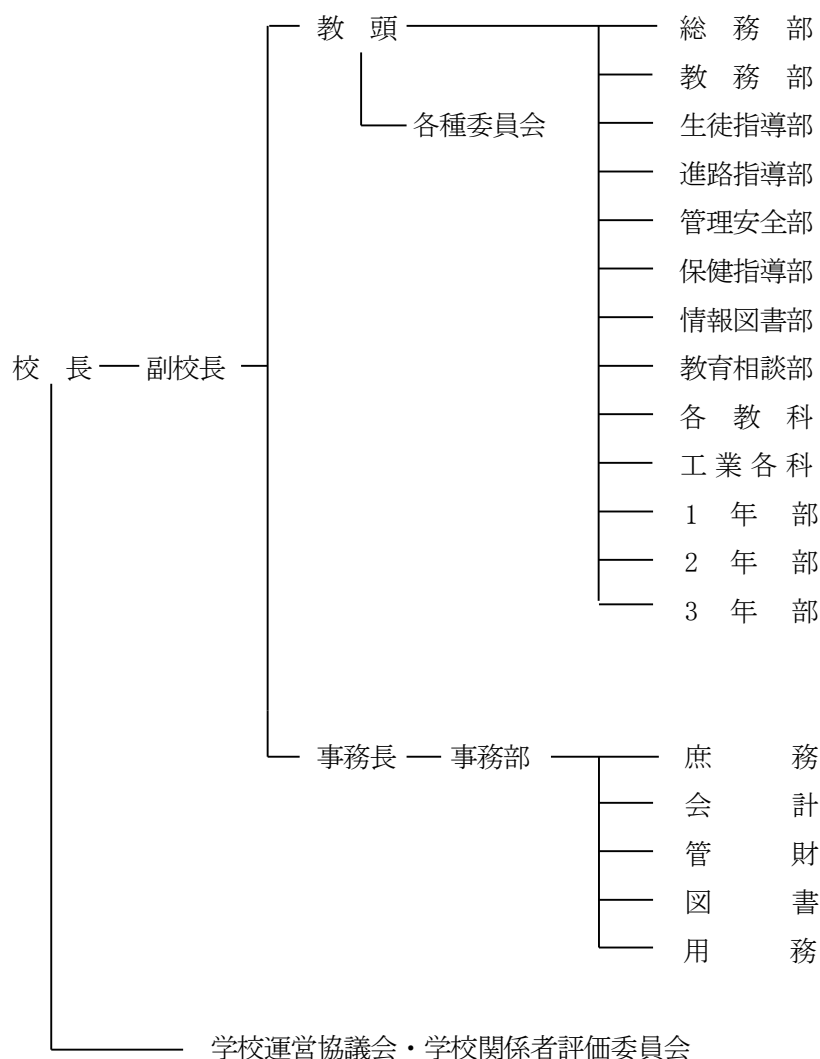
(1) 学校の沿革

昭和14年	3月23日	静岡県立沼津工業学校として認可・開校、応用化学科、採鉱冶金科を設置
昭和14年	4月10日	静岡県立沼津中学校を仮校舎にあて、入学式を挙行
昭和15年	7月21日	校舎及び付属建物竣工、仮校舎より現在地へ移転
昭和18年	3月1日	電気科、機械科認可・設置
昭和18年	4月1日	実業学校規定改正により応用化学科を工業化学科と改称
昭和20年	4月1日	採鉱冶金科を採鉱科と冶金科に分離
昭和23年	4月1日	学則改正により静岡県立沼津工業高等学校と改称（移行措置として併設中学校を設置）
昭和23年	9月1日	定時制課程を設置、工業化学科、電気科、機械科を設置
昭和26年	4月1日	建築科、土木科認可・設置 冶金科を廃して金属工業科を設置
昭和28年	4月1日	定時制工業化学科募集停止、建設科認可・設置
昭和29年	4月1日	定時制建設科を建築科に改称
昭和30年	10月1日	定時制学校給食開始
昭和33年	3月31日	定時制機械科1学級増
昭和38年	3月31日	現本館第1棟第1期工事竣工
昭和38年	4月1日	採鉱科を工業地質科に改称、工業化学科1学級増
昭和43年	3月28日	現本館第1棟第2期工事竣工
昭和43年	3月31日	工業地質科募集停止
昭和44年	3月28日	現本館第2棟第1期工事竣工
昭和44年	4月15日	運動場西側1,000㎡拡張
昭和45年	2月9日	機械科、金属工業科実習室竣工
昭和45年	3月31日	現本館第2棟第2期工事竣工
昭和45年	12月18日	生徒昇降所・体育器具室・部室竣工
昭和46年	2月10日	土木科・機械科・金属工業科実習室竣工
昭和47年	2月29日	電気科・建築科実習室竣工
昭和48年	3月10日	工業化学科・機械科・建築科・土木科実習室竣工
昭和49年	3月22日	土地796㎡を買収
昭和49年	3月25日	現本館第3棟工業化学科・電気科・建築科実習室竣工
昭和54年	3月31日	格技場西側土地1,923㎡買収
昭和54年	11月20日	変電室西側土地495㎡を買収
昭和55年	3月31日	校地として球技コート造成、25mプール竣工
昭和56年	3月25日	新体育館・格技場・多目的ホール竣工

昭和57年	4月	1日	定時制給食室竣工
昭和57年	4月	1日	定時制専修コース（建築科、電気科）を設置、工業化学科1学級減
昭和59年	10月	15日	第2棟耐震補強工事竣工
昭和61年	4月	1日	電子科設置、土木科1学級減
昭和62年	3月	20日	電子科実習室竣工
平成元年	10月	14日	創立50周年記念式挙行
平成2年	4月	1日	金属工業科を材料技術科に改称
平成4年	4月	1日	工業化学科をシステム化学科に改称
平成5年	4月	1日	新入生より制服をブレザー型に変更
平成5年	8月	31日	校地西側土地 495 m ² を買収
平成6年	2月	7日	都市計画道路実施のため土地 647 m ² を沼津市に譲渡
平成6年	7月	16日	都市計画道路補償工事竣工
平成9年	4月	1日	2学期制とくくり募集開始・定時制学科改編により1学級減（機械科と電気科を機械・電気科）
平成14年	5月	24日	第1棟耐震補強工事竣工（プレス工法）
平成16年	4月	1日	定時制自校三修制を設置
平成17年	4月	1日	定時制機械電気科、建築科廃止、工業技術科設置
平成18年	1月	31日	体育館耐震補強工事竣工
平成18年	4月	1日	全科一括募集
平成18年	4月	1日	全日制システム化学科、材料技術科を物質工学科に改称し、1学級減
平成19年	4月	1日	定時制専修コース（電気類型）募集停止
平成19年	5月	31日	生活会館「不撓館」竣工 寄附申込(H19.7.9 生活会館建設委員会) 寄附受納(H19.8.14 静岡県)
平成20年	4月	1日	定時制専修コース（建築類型）募集停止
平成24年	2月	29日	多目的体育館（第二体育館）及び昇降所の一部解体撤去完了 実習棟（7、8、24棟）、昇降所及びプール付属棟耐震補強工事完成
平成31年	4月	1日	全日制学科改編により都市環境工学科設置（土木科と物質工学科を都市環境工学科都市環境類型と同科環境化学類型に再編）、電子科を電子ロボット科に改称
令和2年	4月	1日	都市環境工学科1学級減
令和3年	4月	1日	電子科が全て電子ロボット科に、土木科及び物質工学科が全て都市環境工学科になる。
令和5年	2月	28日	普通教室棟（第1棟）竣工

(2) 組織図

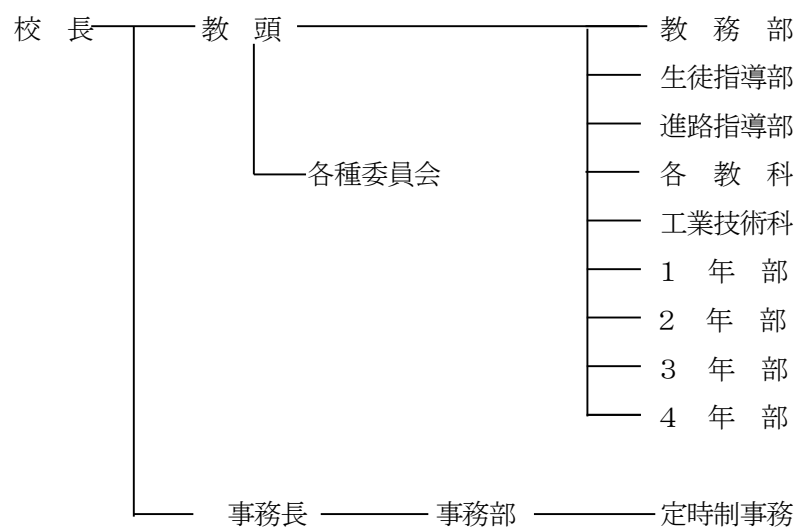
【全日制課程】



各種委員会

校務運営委員会、学校安全委員会、学校保健委員会、部活動検討委員会、資格取得委員会、就職進学推薦委員会、教育課程検討委員会、服装検討委員会、職員安全衛生委員会、工業科長会、学科選択委員会、インターンシップ推進委員会、入試検討委員会、修学旅行検討委員会、工業技術基礎委員会、特別支援教育推進委員会、コンプライアンス委員会、いじめ防止対策委員会、施設開放委員会

【定時制課程】



各種委員会

校務運営委員会、学校評価委員会、学校保健委員会、防災委員会、安全衛生委員会、特別支援教育委員会、いじめ防止対策委員会、コンプライアンス委員会、教育課程検討委員会

2 目指す学校像

【全日制課程】

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
○自己管理能力を育成する ⇒ 基本的な生活習慣を確立し、健康と安全を意識して自己管理することができる ○伝える力を育成する ⇒ 相手の言葉や各種情報を正しく聞き・読み、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるための「もの」を提示して表現することができる ○協働力を育成する ⇒ 他者の価値観を尊重しつつ他者と協働し、ねばり強くことを成し遂げることができる ○行動力を育成する ⇒ 自分の掲げる目標を達成するために主体的かつ計画的に実行することができる ○職業人倫理観を高める ⇒ 職業的・社会的な秩序や規律に対して適切に対応していくことができる ○自己実現のための学力を高める ⇒ 基礎力診断テストの結果から、自分の基礎学力の状況を把握し、自分の希望進路に向けて努力することができる ⇒ 進学希望者は、高い目標を持ち大学等への進学に向けて努力することができる	○魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る ⇒ 規律ある授業を展開する ⇒ 「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業づくりを推進する ⇒ ICTを活用し分かりやすい授業を展開する ○これからの社会を生き抜く人材育成のための産業教育を推進する ⇒ 人材育成に関し、企業・地域・高等教育機関等と連携する ⇒ 技能検定や高度な資格取得指導を推進する ⇒ 校外での発表、展示会へ積極的に参加する ○活力に溢れ魅力ある学校教育を推進する ⇒ 学校の部活動に係る活動方針に沿って活動する ⇒ インターンシップ、保育体験実習等の校外学習を推進する ⇒ 学校行事の精選と効率化を図る	○基本的な生活習慣が確立している生徒 ⇒ 自主的に考え、自律的に判断し生活することができる ○規範意識や人権意識が高い生徒 ⇒ 自他の心身の健康に気を配り、他人を思いやることができる ⇒ 感性を豊かに働かせながら、思いや考えを表現することができる ○ものづくりに高い志を持ち、自己を高め、社会に貢献しようとする生徒 ⇒ 専門的な技術・技能の習得に継続的に努力することができる ⇒ 国家資格等の取得に積極的にチャレンジすることができる ○社会におけるリーダーを志す生徒 ⇒ 自己実現について高い目標を持ち、就職や大学等への進学に向けて継続的に努力することができる

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 安全・防災教育を中心とし、安心安全な学校づくりを推進する。
- イ 規範意識や人権意識等の醸成を通して、共に支え合い思いやる豊かな心を育む。
- ウ 基本的な生活習慣の確立、並びにたくましく生きるための健康や体力の増進を図る。
- エ 魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る。
- オ Society5.0 を生き抜く人材育成のための産業教育を、企業・地域・高等教育機関等と連携して推進する。
- カ 部活動や学校行事等を充実させるとともに、業務の効率化を図り、活力に溢れ魅力ある学校教育を推進する。
- キ 公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実する。

【定時制課程】

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
○自己管理能力を育成する ⇒ 基本的な生活習慣を確立し、健康と安全を意識して自己管理することができる ○伝える力を育成する ⇒ 相手の言葉や各種情報を正しく聞き・読み、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるための「もの」を提示して表現することができる ○協働力を育成する ⇒ 他者の価値観を尊重しつつ他者と協働し、ねばり強くことを成し遂げることができる ○行動力を育成する ⇒ 自分の掲げる目標を達成するために主体的かつ計画的に実行することができる ○職業人倫理観を高める ⇒ 職業的・社会的な秩序や規律に対して適切に対応していくことができる ○基礎学力を高める ⇒ 義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力を習得することができる	○魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る ⇒ 規律ある授業を展開する ⇒ 「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業づくりを推進する ⇒ ICTを活用し分かりやすい授業を展開する ○これからの社会を生き抜く人材育成のための産業教育を推進する ⇒ 人材育成に関し、企業・地域・高等教育機関等と連携する ⇒ 検定や資格取得指導を推進する ⇒ 技能連携制度や実務代替などを積極的に進める ○活力に溢れ魅力ある学校教育を推進する ⇒ 学校の部活動に係る活動方針に沿って活動する ⇒ 進路ガイダンスやインターンシップによる職業体験を充実させて職業観や勤労観を育む教育を推進する ⇒ 学校行事の精選と効率化を図る	○基本的な生活習慣が確立している生徒 ⇒ 自主的に考え、自律的に判断し生活することができる ○規範意識や人権意識が高い生徒 ⇒ 自他の心身の健康に気を配り、他人を思いやることができる ⇒ 感性を豊かに働かせながら、思いやりや考えを表現することができる ○ものづくりに高い志を持ち、自己を高め、社会に貢献しようとする生徒 ⇒ 専門的な技術・技能の習得に継続的に努力できる ⇒ 国家資格等の取得に積極的にチャレンジできる

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 安全・防災教育を充実し、安心安全な学校づくりを推進する。
- イ 規範意識や人権意識等の醸成を通して、思いやりのある豊かな心を育む。
- ウ 基本的な生活習慣の確立により、明るく豊かな生活を営む態度を育成する。
- エ 基本的な学習内容の定着を通して、生徒の個々の進路希望を実現する。
- オ 地域社会に根ざした産業教育を関係機関と連携して推進する。
- カ 業務を明確化させることにより業務改善を推進し、持続可能な学校運営体制を構築する。
- キ 公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実する。

3 監査対象期間の年度別重点目標

(1) 令和5年度の重点目標の方策への取組と評価

【全日制課程】

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心安全な学校づくりを推進する。	- 交通安全に気を付けていると答える生徒 100% - 交通事故件数 前年度比 50%削減	- 交通安全に気を付けていると答えた生徒 98.8% - 交通事故件数は前年度 19 件、本年度 40 件	C	- 交通安全に気を付けていると答えた割合は高かったが、警察からの自転車指導カード件数は 192 件と多かった。 - 自転車事故が増加しているため、来年度からはヘルメットの着用を全学年に義務づける。 - 無事故無違反キャンペーンを 2 回実施したが事故削減には至らなかった。今後も警察機関等と連携しながら、交通事故削減に努める。
		地域防災訓練への参加率 60%以上	生徒の参加率は 8.3%	C	- 今年度は、地域防災の日に合わせた防災訓練前日に津波注意報が発令され、訓練自体が中止になった地区もあった。また、感染症の流行と重なり、体調不良者も多かった。課題は、20%程度の参加意思希薄な生徒への対応と考える。 - 目標には達しなかったが、気候変動等の影響並びに校内での防災訓練の成果として生徒の防災意識は高まっている。
		清掃活動に積極的に取り組んでいると答える生徒 90%以上	- 清掃活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒は 96.2% - 各実習後、3S（整理整頓清掃）を実施できている。	A	- 整美委員による月毎の校舎内点検でも、概ね美化が保たれている。新校舎へ移動したため、より一層の校内美化を呼びかけていく。 - 各実習室、教室の整理整頓清掃を常に心掛けるように生徒を指導することができている。
イ	規範意識や人権意識等を醸成する。	- ピアサポート研修の実施 - 信頼できる先生がいると答える生徒 70%以上	1 年生を対象に入学後と科分け後の計 2 回、ピアサポート研修を実施した。また、1 年生を中心に LHR にて、ソーシャルスキルトレーニングを 5 回実施した。 - 信頼できる先生がいると答えた生徒は 84.3%	A	- ピアサポート研修を通じ、新しい人間関係構築の不安が減じたと答える生徒が多かった。 - 信頼できる先生がいると答える生徒の割合が更に向上するよう、多様な生徒への理解を深める職員研修を実施していく。

		・主権者教育、消費者教育等副教材を活用した授業・講話の実施 ・SNSに関連するトラブル件数0件	・生徒の実態を踏まえ、主権者教育や消費者教育に関し、自治体等から提供される副教材を活用し円滑に実施できた。 ・SNSに関するトラブル件数は0件であった。	A	・主権者教育、消費者教育ともに、教科等横断の視点により実践していく。 ・集会や各HRでの指導が浸透したと考えている。今後も継続指導を実施していく。
ウ	基本的な生活習慣の確立、並びにたくましく生きるための健康や体力の増進を図る。	・欠席者、遅刻者数の削減(前年度比20%減) ・服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答える生徒90%以上	・欠席者は17.5%増加、遅刻者は70.6%増加 ・服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答えた生徒は95.8%であり、学校生活も落ち着いている。	B	・新型コロナウイルスやインフルエンザにかかる欠席が増加したため、目標は達成できなかった。体調管理等について継続的に指導していく。 ・校則を改訂し、生徒の自主性を養うことができた。集会や各HRでの指導が浸透したと考えている。今後も継続指導を実施していく。 ・身だしなみについて、生徒自ら考える機会を増やしたい。 ・生徒一人ひとりの存在価値、自己肯定感が高まるよう継続指導したい。
		・新体力テスト優良校 ・朝食摂取率90%以上 ・健康診断結果による再検査受診率の向上 ・がん教育、学校保健計画への位置づけを実施	・本年度は、男女とも優良校に認定されなかった。 ・朝食摂取率は86.8%であった。 ・健診再検査受診率は歯科31.9%、視力67.7%であり、項目によって差がある。 ・学校保健計画に基づき、教科の中で、がん教育を実施した。	C	・年々、生徒の体力水準が低下している。粘り強く体力向上のための指導を講じていく。 ・生徒個々の健康管理意識が低いので、「ほけんだより」等を通じて規則正しい生活、朝食摂取、再検査受診・疾病理解の大切さを呼びかけていく。 ・がん教育は引き続き学校保健計画に基づいて、複数での教科指導を通じて実施したい。
エ	魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る。	・先生の話をよく聞いていると答える生徒100% ・提出物の期限厳守 ・年2回の「授業参観週間」の実施	・先生の話をよく聞いていると答えた生徒97.1% ・多くの生徒が提出期限を意識した生活を送っている。 ・年2回「授業参観週間」を実施した。	B	・ほとんどの生徒が先生の話をよく聞いていると答え、ほぼ成果目標に達した。 ・自己管理能力は工業科で学ぶ生徒の基本であるので、今後も意識の高い生徒の育成を目指す。 ・授業改善が活発になるための授業参観週間を今後も継続していく。

		- ICT を活用して授業を実施する教職員 70%以上 - 半分以上の教科で授業が分かると答える生徒 80%以上	- 全教職員（100%）が ICT を活用した授業を実施できた。 - 半分以上の教科で授業が分かると答えた生徒 86.8%	A	- ネットワークの接続環境やプロジェクターの利用など、教室におけるパソコンの利用環境が整備されているため、ICT を活用した授業の実施率は 100%であった。今後さらに有効な活用方策を検討していく。 - ICT の活用や授業改善の結果、授業が分かると答えた生徒が目標を大きく上回った。今後も分かる授業の実践を目指す。
		- 就職内定率 100% - 大学進学希望者の試験合格率 90%以上 - 外部機関模試の活用拡大 - 社会人講話等の満足度 80%以上	12 月中旬時点で、学校推薦を希望している生徒の就職内定率は 97.1% - 大学進学希望者の試験合格率は 86.2% - 外部模試（就職、進学）は例年同様に活用した。 - 社会人講話等の満足度は 83.5%	B	- 就職は年内でほとんどの生徒が内定を得ており、昨年度と同程度の数字であった。また、今年度も不合格理由が「面接での内容等」と答える企業が多かったので、話す内容はもちろん、面接者からの質問に的確に答えられるよう、対策を講じていく必要がある。 - 大学進学の合格率については、国公立大学を希望する生徒が不合格になる場合が多く、基礎学力と専門知識、プレゼン能力などのレベルを上げていく指導を早い段階から行う必要がある。
オ	Society5.0 を生き抜く人材育成のための産業教育を推進する。	- ものづくりに関心があると答える生徒 90%以上 - 技能検定及び国家試験等の受験者数、合格者数の増加	- ものづくりに関心があると答えた生徒は 91.8% - 放課後、長期休業中を中心に、各種の国家資格の講習会を実施するなど、国家試験に積極的に取り組める環境を整えたことで、受験者数、合格者数が増加した学科があった。	A	- 機械科：技能検定 2 級（普通旋盤）合格者 1 人。ガス溶接技能講習修了 20 人 - 電気科：第二種電気工事士合格者 25 人、第一種電気工事士筆記試験合格者 24 人 - 電子ロボット科：工事担任者第二級デジタル通信は結果待ち。第二級アナログ通信合格者 15 人。（アナログ合格者は 5 倍増加） - 建築科：技能検定 3 級（大工）はマイスター制度を利用し 9 人受験し、3 人合格。昨年度より受験者数が増加した。なお、マイスター制度の利用が隔年制のため、来年度は減少する可能性がある。 - 都市環境工学科：危険物取扱者乙 4 類 21 人受験し合格者 8 人

	・ものづくりに関する各種コンクール、競技会等での上位入賞者数の増加	・県ものづくり競技大会への参加 ・建築甲子園への参加 ・県高校生エコラン大会への参加 ・WRO 大会への参加 ・JMCR 東海大会への参加 ・県ロボット競技大会への参加 ・ロボットアイデア甲子園県大会への参加	・機械科：県ものづくり競技大会（溶接）と（旋盤）に1人ずつ参加予定で、ものづくりの基幹技術力の向上を図る。 ・電気科：県ものづくり競技大会（電気工事）は1人参加予定で、電気工事士としての力量を一層高めていく。 ・建築科：県ものづくり競技大会（木材加工）は1人参加予定で、加工技術力の向上を図る。 ・都市環境工学科：県ものづくり競技大会（測量）は5人、（化学分析）は2人参加予定で、測量技術や分析力の向上を図る。 ・建築科：建築甲子園静岡予選に参加し、製図技能の向上を図った。 ・テクノクリエイション部：県高校生エコラン大会の燃料電池自動車部門で準優勝、電気自動車部門で6位入賞 ・ロボット制御部：WRO 大会では、積み重ねた技術の成果として全国大会（東京）に出場した。 ・電子技術部：東海大会の結果、3台のマシンが12月に長野県で開催される全国大会に出場。 ・電子ロボット科、テクノクリエイション部：MCR部門には7台、自立制御型部門には3台参加した。結果は、MCR部門のカメラクラスで優勝1台、アドバンスクラスとベーシッククラスで、それぞれ1台ずつ入賞 ・ロボット制御部：ロボットアイデア甲子園では、医者 の代替で診察するロボットアイデアを発表し、8位敢闘賞
	・校外での発表、展示会への積極的参加	・各工業科：オープンハウスに参加し、ものづくり教室等を実施。（御殿場青少年交流の家）地域連携として、隣接する沼津第三中学校の生徒を対象とし、夏休みにもものづくり教室を開催した。（本校）沼津市制100周年行事の一環で、物づくり教室や実習等での成果を発表した。（プラサヴェルデ）	A ・各種大会、地域イベント、生徒研究発表会等へ参加することができ、生徒の達成感や充実感を高めることができた。

		・ロボット制御部：子ども学習支援を実施（第三地区センター）。プログラミング出前授業を実施し生徒が習得した技術を還元した。（第二小学校） ・生徒会：「ミニミニ水力発電コンテスト」にて技術支援を実施（白滝公園） ・機械科：・実学チャレンジフェスタへ参加し、ドッグタグ（ネーム）製作教室を開催した。（ツインメッセ静岡） ・電子ロボット科：子ども夏大学に参加し、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝えた。（プラサヴェルデ）こどもアカデミーに参加し、生徒が電子工作の講師を担当した。（ぐりんぱ）地元産業機械メーカーのワークショップに参加し、小さな子どもたちへの技術支援を実施した。（サントムーン） ・建築科：子ども夏大学に参加し、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝えた。（プラサヴェルデ）地域連携として沼津第二校区にてミニチュア黒板づくり教室を開催した。（第二校区） ・都市環境工学科：11月の「土木の日イベント」に合わせ、課題研究で製作した「レンガ橋」を展示し、参加者から好評を得た。		
	・中学校訪問、ホームページ・SNSの充実等、広報に有効な取組の推進	・生徒募集に繋げるため、全教員で分担し東部地区中学校を訪問し、入学希望者の手応えを感じることができた。 ・毎週金曜日の夕方、中学生対象の個別相談会を実施した。 ・ホームページは、投稿マニュアルを作成し、各教職員が最新情報を掲載できるよう努めた。 ・公式X（旧ツイッター）及びYouTubeでは、生徒の活躍や中学生向けイベントの情報を効果的に発信できた。 ・新たな取り組みとして、デジタルサイネージを新校舎		・中学校訪問の拡大、個別相談会の実施、他校と合同の学校説明会等を実施したことにより、学校の広報に寄与することができた。来年度以降も継続した取組を実施していく。

			で運用し情報の提供に努めた。 部活動等の全国大会出場前には関係自治体首長を表敬訪問し、沼工を大きく PR できた。		
		- 新学科教育課程の継続検討及び生徒の実情に合わせた教育課程の編成 - 学科間の連携によるものづくりの推進	- 学習評価も含め本校の実情に合った教育課程の検討を継続的に行った。 - 本校の将来を見据えた学校の在り方などを、時間をかけて検討した。 - 各種イベント等を通し連携を図った。	A	- 新教育課程実施 2 年目となり、特に観点別学習状況の評価については、本校生徒の実態に即し適切に評価できたと考える。 - 引き続き学校の在り方を踏まえた教育課程を検討していく。 - 工業科全学科が多くのイベントや競技会に出展・出場する過程を通して、学科相互に技術支援することができた。(旋盤技術、電子技術、化学技術等)
力	活力に溢れ魅力ある学校教育を推進する。	- 部活動計画書・報告書の定期的な提出と活動時間および帰宅時刻の徹底 - 各部の掲げた目標を半数以上の部が達成する - 部活動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合 80% 以上	- 活動計画書・報告書の提出は概ね実施できている。定時制の授業が始まるまでには体育施設の移譲は完了している。 - 各部ともコロナ禍前のような活動ができた。生徒がのびのびと活動する様子が、多くの場面で見られた。 - 部活動に意欲的に取り組んでいると答えた生徒 75.6%	B	- 教員の働き方改革もある中で、部活動指導については部活動ガイドラインを遵守するよう、繰り返し呼びかけていく必要がある。 - 活動計画書・報告書をデジタル化することにより業務を改善することができている。 - 県大会等にて顕著な実績を残し、東海大会、全国大会で活躍する部があった。東海高校総体（ボート部 1 人）、東海選抜大会（レスリング部 1 人）、東海新人大会（陸上部 1 人）、国民体育大会（ボート部 1 人）、ジュニアオリンピック（レスリング部 1 人） - 教職員の責任の荷重が大きく、生徒のニーズに答えられていない部分もある。 - 多くの大会やイベントに参加することにより、生徒が意欲的に取り組むことができた。 - 生徒が主体的に取り組むことができるように、教員の支援が必要であるが、部活動の在り方を考える必要性がある。

		・学校生活に満足していると答える生徒 90%以上 ・学校が楽しいと答える生徒 90%以上 ・学校行事に意欲的に取り組んでいると答える生徒 90%以上	・学校生活に満足していると答えた生徒 88.5% ・学校生活が楽しいと答えた生徒 88.6% ・学校行事に意欲的に取り組んでいると答えた生徒 94.2%。沼工祭・インターンシップ・修学旅行を計画どおり実施することができた。	B	・学校生活において多くの生徒が前向きに臨み、充実した生活を送っている。学校行事等へ、より主体的に取り組めるような内容を検討していく。 ・個を尊重する傾向がある中で、集団で取り組むことや、一生懸命取り組むことの大切さを今後も伝えていきたい。 ・集団活動や行事が苦手な生徒に対する声かけを心がけていきたい。 ・多くの規制が解消され、生徒が充実した学校生活を送れたことに成果を感じた。 ・沼工祭では、生徒会が中心となり、新校舎を展示場所とし、食品販売をキッチンカーに依頼、体育館ではステージ発表、体育祭のアーチ縮小など新しい試みを行った。多くの改善点が明確になったため、次年度に継続した取り組みを行う。 ・学校行事全般でも、自ら考えて行動するなど、行事の目的を達成することができた。あわせて、教員の企画力とマネジメント力が、今後も一層重要
		・研修・研究の評価実施 ・研究評価大会・外部研究助成への積極的エントリー	・全学科が、県工業校長会主催の生徒研究論文に応募できた。 ・複数の研究助成へエントリーした。	A	・電子ロボット科：山崎賞助成、静岡県高等学校工業教育研究会研究助成へ応募し研究助成金を得ることができた。 ・建築科：三島福祉協会の社会福祉活動助成金と、プロフェッショナルへの道（県教委事業）の研究助成金を得て、ものづくりをより一層推進することができた。今後も積極的に応募し、工業教育を充実させていく。
キ	教育予算の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実する。	・教育用備品等の整備・充実	・限りある予算の中で、適切な予算執行を行い、備品等の整備充実を図った。 ・電気主任技術者の認定校であり、教育用備品の状態は常にチェックしている。	A	・学校経営予算等が毎年減少している中、事業内容を見直す等、効果的な執行に努めていく。 ・認定校に係る教育用備品の不備は速やかに修繕依頼した。

		・定期的な校内安全点検の実施 ・要改善箇所の低減	・新校舎の使用前に、安全点検を実施した。 ・PTA と連携し校内の安全点検を実施した。 ・要改善箇所の修繕・学校安全パトロールで指摘のあった事項の修理等を行った。 ・Wi-Fi アクセスポイントの設置により生徒の学習環境の改善を行った。		・点検の結果、改善が必要と判断された箇所について情報共有を図り対応を検討中 ・実習用設備は経年劣化しているものもあるが、安全第一の実習が実施できるよう管理できた。 ・施設が著しく老朽化しているため、生徒の安全・安心を守るという使命に立ち返り、学校を経営していく。
--	--	---	---	--	---

【定時制課程】

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心安全な学校づくりの推進	交通安全に気を付けていると答える生徒 80%以上 重大な交通事故件数ゼロ	交通安全に気を付けていると答えた生徒 89% 重大な交通事故件数ゼロ	A	成果目標は全て達成しているが、交通に関する軽微な事故が3件報告されている。交通マナーも含めて自分の命を守ることの大切さを今後も訴え続けていきたい。 交通事故は 自転車 単独・転倒 自転車 車両と接触 自動車 シカに接触
		防災意識を高め安全について自主的に考え行動できる生徒が80%以上	災害時に命を守るためにどのような行動をすればよいかを理解していると答えた生徒 89%	A	防災訓練では例年の態様に加え防災講話を実施した。次年度は消防署や県の該当部署と連携した取り組みを実施、防災意識の更なる高揚に努めていきたい。
		工業実習での重大な事故件数ゼロ	実習教科を含む工業に関する授業内で、生徒の事故が発生しなかった。	A	現在、重大事故ゼロを継続中である。今後も気を抜くことなく、継続できるよう取り組んでいく。危険予知や実習服の正しい着こなし等、生徒が主体的に行動するように指導する。
イ	規範意識や人権意識等の醸成	信頼できる先生がいると答える生徒が80%以上	信頼できる先生がいると答える生徒が79%	B	今年度は、特別な支援を必要とする生徒や問題行動など、該当する生徒への指導ケア、職員数減など生徒達との関わりが希薄になりがちだった。さらに情報共有と協働する意識を高める。

		本校に入学して良かったと答える生徒が80%以上 学校生活に満足していると答える生徒が80%以上 学校が楽しいと答える生徒が80%以上 挨拶ができる生徒100%	本校に入学して良かったと答える生徒が78% 学校生活に満足していると答える生徒が79% 学校が楽しいと答える生徒が76% 挨拶ができる生徒84%	B	目標に概ね近い状況ではあるが、学校生活に満足できていない生徒、楽しいと思えない生徒も少数存在する。日頃からの声掛け、面談等を通して生徒の実態を把握し、教員間の情報共有を行い、生徒へのサポートを丁寧に行っていきたい。 また、目標を持ち主体的に学校生活を送っている生徒は少ないように見受けられる。そのため、生徒一人ひとりが学校生活における目標を見つけられるように働きかけをしていく必要がある。 各教員の声掛け等により、集団行動に対する意識の高まりは見られたが、より一人ひとりの規範意識を高めていく必要がある。
		生徒全員が卒業、進級を目指す。	クラス担任や教科担当者間で生徒情報を共有し、生徒の実態に即して対応することができた。	B	欠課時数が多い生徒が複数存在している。担任を中心に教科担当者と情報を共有して指導に当たっているが、改善が見られない生徒もいる。生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを促し、資質・能力の発達を支えるように働きかけ、生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業、行事等を通じた個と集団への働きかけを大切にする。
ウ	基本的な生活習慣の確立	時と場に応じた行動をとるように気をつけていると答える生徒が80%以上	時と場に応じた行動をとるようにつけていると答える生徒が81%	A	目標は達成できているが、自分勝手な行動をとってしまう生徒も少なからずいる。HRだけではなく授業や部活動を通じた道徳教育等を実践していく必要がある。

		新体力テスト優秀校 (9年連続を目指す)	男子7年連続「最優秀校」、9年連続優秀校以上	A	今後も継続して、運動量の確保と弱点種目の更なる強化に取り組む必要がある。
エ	学習内容の定着により 進路希望の実現	多様な生徒に対する指導方法を研究・実践する教職員 100%	多様な生徒に対しての指導方法を考え実践した教職員 100%	A	発達障害とその他障害を有する生徒に関しては専門家の意見を聞いた上で個別の配慮を行う必要がある。全職員で共有し指導体制を確立する必要がある。
		ICT を効果的に活用して「理解が進む」「楽しい」「活力のある」授業を実践する教職員 100%	ICT 機器を使用して授業・評価を行った教職員 100% 生徒の授業の満足度 76.3%→79.4% 生徒の授業の理解度 81.6%→88.2%	B	今後も ICT 機器の効果的な活用方法について共有していく。 ICTを使うことが目的にならないようにする。 生徒の授業の満足度が 73.9% (R4) から 79.4% (R5) へと向上した。 生徒の授業の理解度が 79.5% (R4) から 88.2% (R5) へと向上した。 授業改善の意識を更に高めて「わかる授業」を実践し、生徒の授業への意欲・関心を高める必要がある。
		外部人材の活用 (3回以上)	外部人材の活用は目標達成。	B	キャリア教育に関連して3回の外部人材活用を実践することができた。(4年を除く学年は2回) 学校行事での外部人材活用は難しいため、次年度は多くの地元企業に声を掛けてミニガイダンスを複数回実施する。生徒が自身の実態に見合う企業を知ること、おのずと進路意識が向上し、インターンシップや職場見学等、進路実現に向けて動きだすことができると思う。

		3年次終了までに進路が明確になっている生徒80%以上 進路決定率100%	3年次までの進路が明確になっている生徒は達成。 進路決定率は12月時点で73%	B	就職・進学の設定は例年通りであったが、就職活動の停滞が現在まで続いている生徒もいる。原因は働く覚悟やクラスメイトの雰囲気の影響していると感じる。早期にインターンシップを体験していた生徒は一次募集で決定しているため、下学年から積極的なインターンシップの紹介、アルバイトの斡旋、地元企業と生徒のミニガイダンスを実施して少しでも就業意識を持たせる。また、校外行事として全員参加型の工場見学を実施する。
オ	地域社会に根ざした産業教育の推進	生徒研究発表会、作品展示会を実施し、保護者や地域の方々に開放する。	東部地区合同文化祭の準備を着実に進め、展示部門をはじめ、今年度はステージ部門への参加を果たした。	C	今年度は、課題研究の設定が無いため、研究発表の場がないが、授業公開日に作品展示を実施した。 東部地区合同文化祭は担当校でもあり、例年より職員の負担がかなり多かった。実習での製作物の展示、ステージ発表など生徒の活動を発表することができた。
		生活体験発表会へ全生徒が参加し、代表生徒は東部地区以上で入賞を目指す。	東部大会1名出場。	B	夏休みを利用して出場する生徒に対しての書き方指導と話し方指導を実施した。 全校生徒に対しての作文の書き方を教授していく。
		生徒会主催による地域と連携したボランティア事業へ参加する生徒が100%	地域と連携した事業や学習発表・実践の場への参加回数が4回以上と答えた生徒26%。	C	目標を大きく下回った結果となった。沼津市の地域防災訓練が津波注意報によって中止となってしまったことも要因の一つとして考えられるが、地域行事やボランティア等の主体的な参加を促していきたい。また、学校からも様々な行事や取り組みなどの情報提供を積極的に行っていきたい。

カ	業務改善の推進による持続可能な学校運営体制の構築	各分掌で業務の見える化による改善に取り組む職員100% ICT活用により「スクールDX」を推進する教職員が100%	ICTを活用し業務の精選と改善を行った教職員100%	A	ICTを活用し、分掌内の業務の見える化することで業務の精選と改善を行うことができた。 来年度はC-Learningの強みを活かしつつ、活用場面に応じて他のアプリの強みを活用することを全体で進める必要がある。 非常勤講師の先生方への対応を組織的に行う。
キ	教育予算の適正で効果的な執行による、学習環境の改善と充実	教育用備品等への整備・充実	限りある予算の中で、適切な予算執行を行い、備品等の整備充実を図った。	A	学校経営予算等が毎年減少している中、事業内容を見直すなど、効果的な執行に努めていく。
		要改善箇所の低減	職員安全衛生委員会等での課題に対し、随時、迅速に対応することができた。	A	施設が著しく老朽化しているため、生徒の安全・安心を守るという使命に立ち返り、「最悪の事態」を想定しながら日々取り組んでいく必要がある。

(2) 令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標

【全日制課程】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	安心安全な学校づくりを推進する。	・登下校時の指導、交通安全教室等の実施によるルールの厳守、マナーの向上	・交通安全に気を付けていると答える生徒100% ・交通事故件数 前年度比50%以上削減
		・家庭、地域との連携による防災意識の高揚	・地域防災訓練への参加率60%以上
		・施設・設備の適切な管理及び清掃活動（3S）の徹底	・清掃活動に積極的に取り組んでいると答える生徒90%以上
イ	規範意識や人権意識等を醸成する。	・校内教育相談体制の充実と関連機関との連携	・ピアサポート研修の実施 ・信頼できる先生がいると答える生徒80%以上

		・成年年齢引き下げに伴う主権者教育、消費者教育、マナー・モラル教育等の推進 ・特別支援教育講座の実施	・主権者教育、消費者教育等副教材を活用した授業・講話の実施 ・SNSに関連するトラブル件数 0 件
ウ	基本的な生活習慣の確立、並びにたくましく生きるための健康や体力の増進を図る。	・あいさつの励行と服装指導の充実 ・集会指導等の充実	・欠席者、遅刻者、早退者数の削減（前年度比 20%減） ・服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答える生徒 90%以上
		・体育的活動の充実 ・保健指導の実施	・新体力テスト優良校 ・朝食摂取率 90%以上 ・健康診断結果による再検査受診率の向上 ・がん教育の学校保健計画への位置づけを実施
エ	魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る。	・規律ある授業の実践 ・生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業づくりの推進	・先生の話をよく聞いていると答える生徒 100% ・提出物の期限厳守 ・年 2 回の「授業参観週間」の実施
		・ICT 教育の充実 ・教員個々による授業アンケートの実施 ・授業等による図書館利用	・ICT を活用して授業を実施する教職員 100% ・全教科で授業が分かると答える生徒 80%以上
		・進路指導の充実	・就職内定率 100% ・大学進学希望者の試験合格率 90%以上 ・外部機関模試の活用拡大 ・社会人講話等の満足度 80%以上
オ	Society5.0 を生き抜く人材育成のための産業教育を推進する。	・実験、実習の工夫、改善 ・技能検定や高度な資格取得指導の推進 ・高度熟練技能者等の活用	・ものづくりに関心があると答える生徒 95%以上 ・技能検定及び国家試験等の受検者数、合格者数の増加 ・ものづくりに関する各種コンクール、競技会等での上位入賞者数の増加

		・生徒の学習成果の発表機会の充実 ・ふるさと教育、地域貢献活動の推進 ・広報活動支援委員会の活性化	・校外での発表、展示会等への積極的参加 ・中学校訪問、ホームページ・SNSの充実等、広報に有効な取組の推進
		・新学習指導要領に沿った教育課程の研究	・新学科教育課程の継続検討及び生徒の実情に合わせた教育課程の編成 ・学科間の連携によるものづくりの推進
カ	活力に溢れ魅力ある学校教育を推進する。	・「学校の部活動に係る活動方針」に沿った、部活動指導の合理化・効率化の推進 ・部活動の活性化	・部活動計画書・報告書の定期的な提出と活動時間および帰宅時刻の徹底 ・各部の掲げた目標を半数以上の部が達成する ・部活動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合 80%以上
		・グローバル教育の推進 ・インターンシップ、保育実習等の校外学習の推進 ・学校行事の精選と効率化	・学校生活に満足していると答える生徒 90%以上 ・学校が楽しいと答える生徒 90%以上 ・学校行事に意欲的に取り組んでいると答える生徒 90%以上
		・各科、分掌、個人等での研修・研究テーマの設定の推進	・研修・研究の評価実施 ・研究評価大会・外部研究助成への積極的エントリー
キ	教育予算の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実する。	・教育ニーズに応じた予算執行	・教育用備品等の整備・充実
		・安全衛生委員会、学校保健委員会等による要改善箇所の洗い出しと改善	・定期的な校内安全点検の実施 ・要改善箇所の低減

【定時制課程】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	安心安全な学校づくりの推進。	・交通安全教室、グッドマナー講習会の実施。 ・登下校指導の実施。	・交通安全に気を付けていると答える生徒 90%以上 ・重大な交通事故件数ゼロ	生徒指導 工業科

		・防災意識の高揚と命を守る教育の推進。 ・校内防災訓練の円滑な実施。	・防災意識を高め安全について自主的に考え行動できる生徒が 90%以上	
		・学校管理下における安全教育の推進。	・工業実習での重大な事故件数ゼロ	
イ	規範意識や人権意識等の醸成。	・多様な生徒に対応した指導計画を作成し、組織的な指導を実践できる体制の確立。	・信頼できる先生がいると答える生徒が 80%以上	教務 生徒指導
		・生徒の自尊心を高める教育活動の推進。 ・生徒の希望に即した部活動の充実。 ・学校行事の精選と安全な実施。 ・他者を思いやる心の育成。	・本校に入学して良かったと答える生徒が 80%以上 ・学校生活に満足していると答える生徒が 80%以上 ・挨拶ができる生徒 100% ・生徒全員が卒業、進級を目指す。 ・他人に対して思いやりを持って行動していると答える生徒が 80%以上	
ウ	基本的な生活習慣の確立。	・生徒の成長を促す生活指導、生徒観察と声掛けの推進。 ・落ち着いた授業環境の醸成。	・時と場に応じた行動をとるように気をつけていると答える生徒が 80%以上	教務 生徒指導
		・体育的活動の充実	・新体力テスト優秀校以上（10 年連続を目指す）	保健体育
エ	学習内容の定着による進路希望の実現。	・多様な生徒に寄り添った、個々に応じた指導の充実。 ・ICT 機器を活用した授業の推進。 ・授業と評価の一体化した授業改善のための研修と実践。 ・困難を抱える児童生徒等への教育・福祉が連携した学びの支援	・多様な生徒に対する指導法を研究・実践する教職員 100% ・ICT を効果的に活用して「理解が進む」「楽しい」「活力のある」授業を実践する教職員 100% ・生徒の授業満足度 80%	教務 進路指導

			・「授業が理解できた」と答える生徒 90%	
		・卒業までの進路指導計画に基づいたキャリア教育の推進と充実。 ・外部人材を活用した職業観や就業意識の育成。	・外部人材の活用（3回以上） ・進路決定率 100% ・3年次終了までに進路が明確になっている生徒 80%以上	
オ	地域社会に根ざした産業教育の推進。	・生徒が自身の能力を肯定的に捉える機会となる学習活動の発表の機会の充実。 ・生徒会主催の自発的な地域社会との連携の推進。	・生徒研究発表会、作品展示会を実施し、保護者や地域の方々に開放する。 ・生活体験発表会に生徒が参加し、自分の考えを伝えることができる。 ・生徒会主催による地域と連携したボランティア事業へ参加する生徒が 80%	工業科 生徒指導
カ	業務改善の推進による持続可能な学校運営体制の構築。	・学習・校務を可視化・連携させるシステム（LMS）を活用した働き方改革の推進。 ・校務効率化に向けた「スクール DX」推進とサポート体制の充実 ・分掌内での業務の精選と改善。	・各分掌で業務の見える化による改善に取り組む職員 100% ・ICT 活用により「スクール DX」を推進する教職員が 100%	教務
キ	教育予算の適正で効果的な執行による、学習環境の改善と充実。	・教育ニーズに応じた予算執行 ・学校保健委員会等による要改善箇所の洗い出しと改善	・教育用備品等への整備・充実 ・要改善箇所の低減	事務 工業科

4 監査対象期間における特色ある取組

【全日制課程】

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令 和 5 年 度	・隣接する沼津第三中学校の生徒を対象とし、夏休みに本校を会場とするものづくり教室を開催した。	(成果) 多くの人の前で、普段の学習の成果を披露する中で、生徒はどうすればうまく内容を伝えることができるか試行錯誤を繰り返し、成長の跡を見せた。また、自分たちの学んできたことを発表する中で、充実感や満足感を味わったものも少なくなく、生徒の自己肯定感の伸長にもつながった。 地域や子どもたちに「ものづくり」の面白さや奥深さを伝えるという意味でも大変意味のある活動となった。 (課題) 授業や部活動単位での活動が多く、こうした有意義な活動を、学校全体のものとするのが、今後の課題である。
	・ロボット制御部が、地区センターを会場に小学生を対象としたプログラミング出前授業を実施し、生徒が習得した技術を還元した。 ・新聞社主催の子ども向け体験イベント「こども夏だいがく」に電子ロボット科と建築科が参加し、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝えた。	
	・電子ロボット科が、地元商業施設で催された、地元産業機械メーカーのワークショップに参加し、小さな子どもたちへの技術支援を実施した。 ・都市環境工学科が、「土木の日イベント」に合わせて課題研究で製作した「レンガ橋」を展示し、参加者から好評を得た。	

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令 和 6 年 度	・県内理工科系大学主催の「未来の科学技術者フェスティバル」に参加し、3Dプリンタ体験など、生徒が講師役となる「ものづくり教室」を実施した。	(成果) イベント等での発表の経験は、準備段階も含め、生徒たちが達成感や充実感を味わうことのできる貴重な経験であり、こうした経験を通して、生徒たちは大きな成長を見せている。 また、こうした活動は、地域や子どもたちに「ものづくり」の面白さや奥深さを伝えるという意味でも大変意味のある活動となっている。 (課題) 前年よりも活動に広がりが見られるが、さらに活動の幅を広げ、学校全体のものとしていくことが、今後の課題である。
	・機械科が医工連携の試みとして、アシストスーツの開発についての展示を行った。	
	・新聞社主催の子ども向け体験イベント「こども夏だいがく」で、機械科がドックタグ製作、電子ロボット科がロボット操作体験、建築科がミニチュア椅子製作、都市環境工学科が染め物体験等を行った。	
	・ロボット制御部が、地区センターを会場に小学生を対象としたプログラミング出前授業を実施した。 ・建築科が、地域の子どもの対象にしたミニチュア黒板、ミニクリスマスツリーづくり教室を開催した。	

【定時制課程】

年 度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	個に応じた指導の充実 ・多様な生徒に対する指導法を研究・実践 ・ICT を効果的に活用して「理解が進む」「楽しい」「活力のある」授業を実践 ・多様な生徒に対して情報を共有し、組織的な指導を確立した特別支援教育の実践	多様な生徒に対しての指導方法を考え実践した教職員 100%。 発達障害等を有する生徒に関しては専門家の意見を聞いた上で個別の配慮を行う必要がある。 ICT 機器を使用して授業・評価を行った教職員 100%。 今後も ICT 機器の効果的な活用方法について共有していく。 ICT を使うことが目的にならないように注意する必要がある。 今年度は、特別な支援を必要とする生徒や問題行動など、該当する生徒への指導ケア、職員数減など生徒達との関わりが希薄になりがちだった。さらに情報共有と協働する意識を高める。また、他者を思いやる心の育成も必要がある。 LHR において、スクールカウンセラーによるソーシャル・スキル・トレーニングを取り入れた。
	生徒の主体的な活動の充実 ・企業でのインターンシップによる就労支援 ・東部地区合同文化祭や生活体験発表会への積極的な参加を通して生徒自身の成長を促す。	インターンシップに参加した生徒がその就労先で就職（2件）することができた。今後も本校の就労支援の一端として積極的に取り組んでいきたい。 東部地区合同文化祭の準備を着実に進め、展示部門をはじめ、今年度はステージ部門への参加を果たした。 東部地区合同文化祭は担当校でもあり、例年より職員の負担が多かった。今後は、役割分担を細分化し、担当校の負担軽減に努める必要がある。 新体力テストにおいて今年度、最優秀校、9年連続優秀校を達成することができた。
	高校教育改革への積極的な取組の推進 ・各分掌で業務の見える化による改善 ・ICT 活用により「スクール DX」を推進	ICT を活用し業務の精選と改善を行った教職員 100%。 ICT を活用し、分掌内の業務が見える化することで業務の精選と改善を行うことができた。 来年度は C-Learning の強みを活かしつつ、活用場面に応じて他のアプリの強みを活用することを全体で進める必要がある。
	・多様な生徒に対して教職員間の情報共有と、組織的な指導や支援の実施	（成果） 打合せにおいて、担任から心配や問題の抱えている生徒について教職員に情報を伝えたり、機密性扱いとしてワード文書等で情報を共有した。また、毎月職員会議にて生徒の様子について情報を共有した。

令和6年度		特別支援学校の教員やスクールカウンセラーに授業を見学し、生徒の特性や様子について助言をいただいた。教職員には、文章での情報共有を行った。 (課題) 不登校や家庭環境、何かしらに問題の抱えた生徒がかなりのウェートを占めている。一人一人抱える問題が違うので、個別の支援が引継ぎ必要不可欠であり、発達障害や特別支援等に関する研修を継続していく。
	外部人材の活用	(成果) キャリア教育に関連して3回の外部人材の活用を実施。進路職業講座、工場見学、進路ガイダンスを実施し、身近に凄いい会社があることや普段の学校生活では学べないものがあった。 (課題) 地元の地域社会に貢献するためにも地元の企業を知ることが大切である。今後の進路選択に役立ててもらい、引き続き継続していく必要がある。
	効果的な ICT 活用	(成果) ICT を効果的に活用して「理解が進む」「楽しい」「活力のある」授業を実践していると答える教職員 100%であった。また、校内研修会では、効果的な ICT 活用による授業改善というテーマで研修を実施した。手軽に使える活用例 (LearnWizOne 等) を学び、その活用例を実際に使いながらグループワークを実施し、手軽に活用できることが分かった。しかし、ICT を活用するのが目的ではなく、生徒の活動に利用することこそが本来の目的であると多くの先生方が認識できた。定時制や工業高校関係の活用例を多く取り入れてあり、身近に感じた先生方が多く有意義な研修会であった。 今年度はC-Learningを導入し、出欠管理・生徒や保護者との連絡・アンケート・授業の欠課管理等を行い、教職員の負担を軽減することができた。 (課題) 定時制単独の導入は金額的に難しく、全日制と共同で利用する必要がある。システムの運営上、何らかの影響を受ける場合もあるので注意しながら運営する必要がある。トラブル時の対処方法についても確認する必要がある。

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

(単位：人)

区分		職名	本 務 職 員														臨時・非常勤職員										合 計
			教育職員							行政職員							教諭（臨時）	養護教諭（臨時）	主事（臨時）	（ALT） 会計年度任用職員 （非常勤講師）	（非常勤勤務職員） 会計年度任用職員	（非常勤勤務職員） （スクールカウンセラー） 会計年度任用職員	臨時・非常勤計				
			校長	副校長	教頭	教諭	教諭（任期付）	養護教諭	主任実習助手	実習助手	小計	事務長	主幹	主査	主任	主事								主任技能員	小計	本務計	
全日制	転出者		1	1	4				6	1	1					2	8						1		9		
	退職者				3				3							0	3				1			1	4		
	再任用（退職）				1				1							0	1						0	1			
	転入者		1	1	7				9	1	1					2	11		1		1		2	13			
	新任者								0							0	0						0	0			
	再任用（新任）								0							0	0						0	0			
	差 引 増 減	0	0	0	△	0	0	0	△	1	0	0	0	0	0	0	△	1	0	1	0	0	△	0	1		
定時制	転出者				1				1							0	1						0	1			
	退職者								0							0	0	1			1		2	2			
	再任用（退職）								0							0	0						0	0			
	転入者				1				1							0	1				1		1	2			
	新任者				1				1							0	1						0	1			
	再任用（新任）								0							0	0						0	0			
	差 引 増 減	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	△	1	0	0	0	△	1	0		
全・定差引増減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△	1	1	0	0	△	1	△			

(2) 現 員 数 (令和7年4月1日 現在)

区分		職名	本 務 職 員														臨時・非常勤職員										合 計	
			教育職員							行政職員							教諭（臨時）	養護教諭（臨時）	主事（臨時）	会計年度任用職員（ALT）	会計年度任用職員（非常勤講師）	会計年度任用職員（非常勤勤務職員）	会計年度任用職員（スクールカウンセラー）	臨時・非常勤計				
			校長	副校長	教頭	教諭	教諭（任期付）	養護教諭	主任実習助手	実習助手	小計	事務長	主幹	主査	主任	主事									主任技能員	小計		
全日制	男	1	1	1	41			1	1	46	1	1		1		1	4	50	2				1	6	2		11	61
	女				8		1		1	10			1	1			2	12	1	1	1		1			2	6	18
	小計	1	1	1	49	0	1	1	2	56	1	1	1	2	0	1	6	62	3	1	1		1	7	2	2	17	79
定時制	男			1	11			1		13							0	13					5 (1)			5 (1)	18 (1)	
	女						1			1					1		1	2					1			1	3	
	小計	0	0	1	11	0	1	1	0	14	0	0	0	0	1	0	1	15	0	0	0		0	6 (1)	0	0	6 (1)	21 (1)
合 計		1	1	2	60	0	2	2	2	70	1	1	1	2	1	1	7	77	3	1	1		1	13 (1)	2	2	23 (1)	100 (1)

※再任用教諭：全日制 フルタイム 6人 定時制 フルタイム 0人

(3) 健康管理について

職員の健康管理については常に留意し、定期検診・指定年齢検診及び人間ドックの利用を勧め、疾病の早期発見・早期治療に努めている。

また、精神疾患の予防のため、職員の精神的ストレスの軽減が図られるよう、明るく相談しやすい職場の環境・雰囲気作りに努めている。

(4) 教職員の研修について

【全日制課程】

	令和5年度	令和6年度
目的	・綱紀の粛正と教職員一人ひとりの倫理観・使命感を高める。 ・新たな学びへの指導方法と観点別評価について研究する。 ・多様な生徒への対応方法を知る。	・多様な特性を持った生徒、環境に適応できない生徒などへの対応方法を知り、実践に生かしていく。 ・教職員一人ひとりの倫理観や使命感を高めるとともに、公金の取り扱いや緊急時の対応方法などを学ぶことで、安心・安全な学校づくりを推進する。
研修内容及び成果	・著名人を招いての特別支援教育研修 内容：LGBTQ について 成果：LGBTQ とは何か、学校に求められていることは何か、生徒や教職員への対応は、どのようになされるべきか、具体的な話を聞くことができた。 また、多様な人々との接し方については、教職員が自然体で振舞うことが重要であることを知った。 ・新学習指導要領対応授業力向上研修 内容：主体的・対話的で深い学びについて、総合教育センターの定期訪問で指導主事から丁寧なアドバイスを受けた。 成果：定期訪問では、参加教員が、主体的・対話的で深い学びについての理解に努め、意識を高めることができた。観点別評価については、今後も精度を高める研究が必要だが、概ね説明責任が果たせる評価を出すことができた。 ・不祥事根絶研修 内容：体罰、セクハラ、交通事故、個人情報保護等について、事例を交えながら研修を	・特別支援教育の視点からの指導と支援 内容：本校にも多様な生徒が入学しており、教員には個に応じた多様な対応が求められている。そのため、年間の校内研修のテーマを「特別支援教育」と定め、以下のように計画的に研修に取り組んだ。 4月 特別支援を必要とする状況の確認 5月 チーム研修（意見交換） 6月 全体研修会 7月 特別支援教育の実践 9月 特別支援教育の事例紹介（定期訪問） 10月 特別支援教育の実践（事例研究） 11月 チーム研修（意見交換） 12月 校内アンケート 1月 振り返り 成果：教員の動機付けとして着実な一歩を踏むことができた。 ・不祥事根絶研修 内容：体罰、セクハラ、交通安全、個人情報保護等について、事例を交えながら随時研修を行った。

研修内容及び成果	行うことで、不祥事根絶へ向けた取組を実施 成果：コンプライアンス通信等を活用し、不祥事根絶のため、教職員個々が具体的な対応方法を身に付けることができた。 - 生徒の安全管理に関する研修 内容：救急救命法についての実技を交えた研修 成果：救急救命法に関する知識を得ることができた。 - 不適切な会計処理に関する注意喚起研修 内容：県の会計は県民から付託された「公金」を扱っていることから、さまざまな事業を実施するに当たっては、公正かつ効率的に執行するための会計上の規定やルールがあることについて確認を行った。 成果：不適切な事例について具体的に学ぶことで、正しい公金の取り扱いについて確認することができた。 - 学校徴収金の取り扱いに関する研修 内容：公金の取り扱い、通帳での管理等確認を行った。 成果：あらためて、公金の取り扱いについて確認することができた。	成果：コンプライアンス通信等を活用することで、教職員個々が具体的なイメージを持ち、対応方法を考え、コンプライアンス意識を向上させた。 - 生徒の安全管理に関する研修 内容：エピペンの使用方法や救急救命法についての実技を交えた研修を実施。 成果：救急救命法に関する知識を深めることができた。 - 不適切な会計処理に関する注意喚起研修 内容：県民から付託された「公金」を扱う中で、さまざまな事業を公正かつ効率的に執行するための会計上の規定やルールがあることについての確認を行った。 成果：不適切な事例について具体的に学ぶことで、正しい公金の取り扱いについて確認することができた。 - 学校徴収金の取り扱いに関する研修 内容：公金の取り扱い、通帳での管理等確認を行った。 成果：公金の取り扱いについてあらためて確認することができた。
課題	- 不断の取組による不祥事根絶に対する意識の高揚 - 現学習指導要領に対応した主体的・対話的で深い学びに関する指導方法の確立。観点別評価の成果を進路指導に繋げるための研究 - ICTを有効活用したわかりやすい授業の実施と、100%の教員が活用することを目指す。 - 発達障害を疑われる生徒への対応方法、家庭との連携	- 特別支援教育の知識や方法が実践の場で生かせるようにしていく必要がある。 - 不祥事根絶や公金の公正な取り扱いに対する意識の高まりが一時的なものに終わらぬよう、継続維持していく工夫が必要である。 - 次年度以降も大きな効果と小さな負担を両立し、職員がより主体的に取り組めるような研修を計画・実施する。

【定時制課程】

	令和5年度	令和6年度
目的	組織的な取り組み体制による協働的な職場環境を構築することを目的とし、2年計画の2年目であり、前年度あげられた課題や要望を取り込むことで、職場のチーム力向上に繋げることを目的とする。	- 綱紀粛正と使命感・倫理観の高揚を図る。 - 教職員の信頼を確保する。 - 不正・不祥事の防止の徹底。 - 一人一台端末の導入、Cラーニングの運用にあわせ、業務効率化と情報共有を図る。

		・多様化する生徒への対応。
研修内容及び成果	4月 着任者オリエンテーション・生徒情報交換とし、着任者及び新担任職員に対し本校の実状並びに生徒の情報の共有を行った。 5月 ICT活用研修① (GoogleForms) とし、生徒に対するアンケートや小テストなどで利用できるアプリの使用法を、本校職員を講師とし実施した。 7月 就労支援団体協力による生徒理解に関する研修会①を実施。日頃よりお世話になっていることもあり、いろいろな具体例をあげながら生徒理解につながるポイントなど、研修させてもらうことができた。 8月 スクールカウンセラーによる研修を実施。カードゲームやコグトレを利用し、人を見る・理解することについて参考となる良い研修ができた。 特別支援校職員による特別支援教育研修を行った。特別支援校の職員から見る本校生徒の様子や、職員の対応の仕方など、具体的かつ実践的な助言をいただき、とても参考になった。 11月 ICT活用研修② (生成AI・google Classroom・Instagram) とし、本校若手職員を講師とし、3グループのローテーション方式で実施した。短時間・少人数で、また、目の前での作業を確認しながらの研修となり、質疑もかしこまらずに行え、良い研修となった。 1月 今年度実施した研修を通し、内容や今後の研修について意見や反省点をアンケート形式により実施した。今後の研修で取り上げてほしい内容では、進路指導、道徳教育、Cラーニング活用法などがあげられ、世の中や人との関わり方に対する教育法などについての情報が求められているようである。 2月 就労支援団体協力による生徒理解に関する研修会②とし、今年度の進路状況をもとに、多様化する生徒への対応や意識づけなど、今後の参考になる研修となった。	・教職員の生徒指導に係る共通ルールについて確認を行った。 ①生徒との携帯電話での連絡及びメール・SNSの使用について ②生徒の面談や相談等の実施方法について ③教職員の自家用車への生徒の乗車について - 成果：生徒指導に係る共通ルールについて確認を行い、教職員の共有を図った。 ・ハラスメントの防止等に関する指針について共通理解を行った。 ①ハラスメントの定義について ②ハラスメントとなり得る言動の例について ③ハラスメントの自己チェックシート - 成果：ハラスメントの範囲や定義について確認を行った。また、ハラスメントになり得る言動の例なども確認をした。チェックシートを活用し、自己理解ができた。 ・不祥事根絶研修 ①令和5年度不祥事根絶に向けた各校の取組状況について ②コンプライアンス動画視聴 - 成果：各校の取組について学び、職場の雰囲気づくりや風通しの良い環境づくりの参考になった。 ・長期休業中における教職員の服務 ①綱紀の厳正な保持 ②交通ルールの遵守 ③その他 - 成果：暴言や体罰など、行き過ぎた指導や飲酒運転や無免許運転及び速度超過についての再確認ができた。また、ワークライフバランスの実現に向けて、有給休暇の積極的利用を呼びかけ、多くの教職員が積極的に利用した。 ・定通制進路指導担当者研修会 (会場本校) ①講演「就労支援団体が学校とつながるということ」 ②分科会「定通制における進路指導の在り方」 - 成果：一人の生徒に対していろんな方が関わっ

		ている、つながっていることが理解できた。また、就職が困難な生徒への対応方法、高校卒業後の支援体制について学ぶことができた。分科会では、各校の困りごとの共通理解が出来た。各校のアンケート回答を添付し、今後の進路関係について参考にして欲しい。 ・懲戒処分の公表 ①懲戒処分の概要説明 ②コンプライアンス通信の活用 成果：自分事として捉え、コンプライアンス通信を活用することにより、具体的な対応方法や事案概要に関係する知識等が得られた。 ・効果的な ICT 活用による授業改善 ①手軽に使える活用例（LearnWizOne 等）を学び、その活用例を実際に使いながらグループワークの実施 ②定時制や工業高校関係の活用例 成果：ICT を活用するのが目的ではなく、生徒の活動に利用することこそが本来の目的であると多くの先生方が認識できた。今後の授業等で ICT を活用し、よりよく資質・能力を育成し生徒の活動に利用できるように取り組んでいきたい。 ・特別支援教育に関する教員研修 ①支援を要する生徒の理解を深め、望ましい支援の在り方を学ぶ 成果：特性を持つ生徒との関わり方や関係性について一人一人違うということを忘れずに接していくことが大切である。生徒に対する考え方、見方が更に広がるものとなった。自分自身の経験値に加え、様々な学びで得た知識や考え方、見方を組み合わせることで、生徒たちにとって無限の方法から最適のアプローチが行えると感じた。
課題	今年度実施した校内研修について、欲しい情報を得ることができたと答える職員が90%、今年度の研修はすぐに実践できそう、	・不祥事根絶に対する研修は、主に管理職による説明となっている。教職員が主体的に組織的に取り組めるよう、グループワーク等を取り入れ

徐々にできそうと答えた職員も 90%であった。本校生徒の実態に合わせた内容について、特別支援校職員やスクールカウンセラーの先生を講師に迎えた研修では、特に反響が大きかったことから、特別支援に関する教育が、生徒のみでなく職員側にも重要な知識となってくることが確認できた。特別支援については、職員間での協働的な取り組みが必要不可欠となるため、今後も研修を続けていく必要がある。	不祥事根絶をしていく必要がある。 - 効果的な ICT 活用による授業改善では、参考になる活用例が取り上げられている。積極的な活用を通して、生徒が分かりやすい授業になるよう努めていく。 - 特別支援や発達障害を疑われる生徒への対応方法が増えている傾向になっており、必要な知識と対応方法、職員間での協働的な取り組みが必要不可欠となるため、今後も研修を継続的に取り組む必要がある。
---	--

6 防災対策について

地震及び火災等の緊急非常事態に対処するため「学校防災計画」に基づき、防災意識の向上を図るとともに、施設・設備の点検や、避難・消火訓練を実施し、学校安全対策に遺漏のないよう努めている。

また、沼津市、地域自主防災担当者、学校職員（小学校・中学校・高校）による「地域・学校防災担当者連絡会議」を開催し、学校が避難場所となった場合の対応および問題点、地域と連携した防災訓練の在り方、地域防災における児童生徒の活動等について確認した。

防災訓練（全日制課程）

令和 5 年度		令和 6 年度	
月 日	内 容	月 日	内 容
5 月 26 日（金）	地区別集会	5 月 24 日（金）	地区別集会
6 月 7 日（水）	防災講座（1 年生）	6 月 5 日（水）	防災講座（1 年生）
7 月 20 日（木）	地域連絡会議 於：沼津第三中学	7 月 18 日（火）	地域連絡会議 於：沼津第三中学
9 月 1 日（金）	防災訓練	8 月 30 日（金）	防災訓練
12 月 3 日（日）	地域防災訓練への参加 ※津波警報発令のため中止	9 月 1 日（日） 12 月 1 日（日）	地域防災訓練への参加 ※津波警報発令のため中止
12 月 13 日（水）	防災訓練	12 月 6 日（金）	防災訓練

防災訓練（定時制課程）

令和 5 年度		令和 6 年度	
月 日	内 容	月 日	内 容
9 月 1 日（金）	防災訓練：地震発生を想定した避難訓練を実施	6 月 21 日（金）	防災訓練：火災発生を想定した避難訓練を実施
12 月 2 日（土） 3 日（日）	地域防災訓練への参加	9 月 2 日（月）	防災訓練：地震発生を想定した避難訓練を実施
12 月 1 日（日）	地域防災訓練への参加		

在 籍 生 徒 調

(令和7年2月28日現在)

学 年	課 程		全 日 制 課 程																				(合 計)			
	学科別	機 械 科				電 気 科				電子ロボット科				建 築 科				都市環境工学科								
	区 分	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計	
1 年	入学者				0				0				0				0				0	200	166	11	177	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少				0				0				0				0				0		0	0	0	
			38	2	40		41	0	41		39	2	41		20	3	23		28	4	32		166	11	177	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少		1		1		1		1		1		1				0				0		3	0	3	
	現 在		37	2	39		40	0	40		38	2	40		20	3	23		28	4	32		163	11	174	
2 年	入学者				0				0				0				0				0	200	167	16	183	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少				0				0				0				0				0		0	0	0	
	1年時後期		38	2	40		38	2	40		40	0	40		22	6	28		29	6	35		167	16	183	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少		1		1		1		1				0		2		2		1	1	2		5	1	6	
	2年時当初		37	2	39		37	2	39		40	0	40		20	6	26		28	5	33		162	15	177	
	増加				0		(1)		(1)				0				0				0		(1)	0	(1)	
	減少				0		1	1	2		1		1				0		1		1		3	1	4	
	現 在		37	2	39		37	1	38		39	0	39		20	6	26		27	5	32		160	14	174	
3 年	入学者				0				0				0				0				0	200	168	10	178	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少				0				0				0				0				0		0	0	0	
	1年時後期		28	3	31		39	1	40		39	1	40		27	3	30		35	2	37		168	10	178	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少		1		1		1		1				0		1	1	2				0		3	1	4	
	2年時当初		27	3	30		38	1	39		39	1	40		26	2	28		35	2	37		165	9	174	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少				0		2		2		3		3		3	1	4				0		8	1	9	
	3年時当初		27	3	30		36	1	37		36	1	37		23	1	24		35	2	37		157	8	165	
	増加				0				0				0				0				0		0	0	0	
	減少				0				0				0				0		1		1		1	0	1	
現 在		27	3	30		36	1	37		36	1	37		23	1	24		34	2	36		156	8	164		
合 計		101	7	108		113	2	115		113	3	116		63	10	73		89	11	100	600	479	33	512		

在 籍 生 徒 調

(令和7年2月28日現在)

学 年	課 程	定時制課程				(合 計)			
	学科別	工業技術科							
	区 分	定員	男子	女子	計	定 員	男子	女子	計
1 年	入 学 者	40	8	1	9	40	8	1	9
	増 加								
	減 少		1		1		1		1
	現 在		7	1	8		7	1	8
2 年	入 学 者	40	3	0	3	40	3	0	3
	増 加		1		1		1		1
	減 少		1		1		1		1
	2年時当初		3	0	3		3	0	3
	増 加		0(1)		0(1)		0(1)		0(1)
	減 少		2		2		2		2
	現 在		2	0	2		2	0	2
3 年	入 学 者	40	9	1	10	40	9	1	10
	増 加								
	減 少		1		1		1		1
	2年時当初		8	1	9		8	1	9
	増 加								
	減 少		1		1		1		1
	3年時当初		7	1	8		7	1	8
	増 加								
減 少									
現 在		7	1	8		7	1	8	
4 年	入 学 者	40	14	0	14	40	14	0	14
	増 加								
	減 少		3		3		3		3
	2年時当初		11	0	11		11	0	11
	増 加								
	減 少		1		1		1		1
	3年時当初		10	0	10		10	0	10
	増 加								
	減 少		2		2		2		2
	3 修卒								
	4年時当初		8	0	8		8	0	8
	増 加		0(1)		0(1)		0(1)		0(1)
減 少									
現 在		9	0	9		9	0	9	
合 計		160	25	2	27	160	25	2	27

入学志願者及び入学者数調

(全日制課程)

区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
学 科 別		工業	工業	工業	工業	工業
生徒定員 (A)		200	200	200	200	200
募集者数 (B)		200	200	200	200	200
志願者数	男	172	146	172(1)	174(1)	171
	女	6	4	11	17	13
	計(C)	178	150	183(1)	191(1)	184
受検者数	男	171	141	168(1)	167(1)	169
	女	6	4	11	16	12
	計(D)	177	145	179(1)	183(1)	181
合格者数	男	168	141	168(1)	166(1)	166
	女	6	4	11	16	12
	計(E)	174	145	179(1)	182(1)	178
志願倍率 (C)/(B)		0.89	0.75	0.92	0.96	0.92
受検倍率 (D)/(B)		0.89	0.73	0.90	0.92	0.91
入学者数	男	168	141	168	167	166
	女	6	4	10	16	11
	計 (F)	174	145	178	183	177
充 足 率 (F)/(A)		0.87	0.73	0.89	0.92	0.89

入学志願者及び入学者数調

(定時制課程)

区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
学 科 別		工業技術	工業技術	工業技術	工業技術	工業技術
生徒定員 (A)		40	40	40	40	40
募集者数 (B)		40	40	40	40	40
志願者数	男	17	16	8(1)	3	8
	女	1	1	0(1)	0	1
	計(C)	18	17	8(2)	3	9
受検者数	男	17	16	8(1)	3	8
	女	1	1	0(1)	0	1
	計(D)	18	17	8(2)	3	9
合格者数	男	17	15	8(1)	3	8
	女	1	1	0(1)	0	1
	計(E)	18	16	8(2)	3	9
志願倍率 (C)/(B)		0.45	0.43	0.20	0.08	0.23
受検倍率 (D)/(B)		0.45	0.43	0.20	0.08	0.23
入学者数	男	17	14	9	3	8
	女	1	0	1	0	1
	計(F)	18	14	10	3	9
充 足 率 (F)/(A)		0.45	0.35	0.25	0.08	0.23

□□□□

卒業生の動向調

1 進路状況

(全日制の課程)

学 科 別			機 械 科			電 気 科			電子ロボット科			建 築 科		
年 度			4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度
卒 業 生 徒 数			39	19	30	35	39	37	40	40	37	27	19	24
内 訳	(進 学 志 願 者)		13	2	8	10	2	7	25	17	10	19	9	14
	進 学 者	大 学 ・ 短 大	4	0	5	5	1	5	18	13	7	16	8	9
		専修・各種学校等	9	2	3	5	1	2	7	4	3	3	1	5
		小 計	13	2	8	10	2	7	25	17	10	19	9	14
	就 職 者		24	17	22	25	37	29	15	23	27	7	9	10
	自 営 者		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	進 学 準 備 者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他		1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合 計			39	19	30	35	39	37	40	40	37	27	19	24

学 科 別			都市環境工学科			(計)		
年 度			4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度
卒 業 生 徒 数			29	23	36	170	140	164
内 訳	(進 学 志 願 者)		8	1	5	75	31	44
	進 学 者	大 学 ・ 短 大	5	0	4	48	22	30
		専修・各種学校等	2	1	1	26	9	14
		小 計	7	1	5	74	31	44
	就 職 者		18	21	30	89	107	118
	自 営 者		1	0	0	3	1	0
	進 学 準 備 者		1	0	0	1	0	0
	そ の 他		2	1	1	3	1	2
合 計			29	23	36	170	140	164

(定時制の課程)

学 科 別			工業技術科				
年 度			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
卒 業 生 徒 数			15	8	14	14	9
内	(進 学 志 願 者)		2	1	3	1	0
	進 学 者	大 学 ・ 短 大	1	1	1	0	0
		専修・各種学校等	1	0	2	1	0
		小 計	2	1	3	1	0
訳	就 職 者		12	6	11	11	8
	自 営 者		1	0	0	0	1
	進 学 準 備 者		0	0	0	0	0
	そ の 他		0	1	0	2	0
合 計			15	8	14	14	9

2 求 人 状 況

区 分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
就 職 希 望 者 数	137	90	104	115
求 人 数	2,658	3,181	4,036	3,983
求 人 倍 率	19.4	35.3	38.8	34.6

□□□□

生 徒 の 状 況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出 身 地

(全日制の課程)

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

市 町 名	沼津市	三島市	裾野市	御殿場市	熱海市	伊豆の国市	その他	合計
生 徒 数	215	52	55	21	9	23	137	512
構 成 比 %	42.0%	10.2%	10.7%	4.1%	1.7%	4.5%	26.8%	100.0%

(定時制の課程)

市 町 名	沼津市	清水町	伊豆の国市	三島市	御殿場市	函南町	裾野市	合計
生 徒 数	14	5	1	3	2	1	1	27
構 成 比 %	51.9%	18.5%	3.7%	11.1%	7.4%	3.7%	3.7%	100.0%

(2) 通 学 方 法

(全日制の課程)

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

市 町 名	バス	電車・バス	自転車	徒歩・その他	電車・自転車	バス・自転車	バス・電車・自転車	合計
生 徒 数	4	30	316	26	91	32	13	512
構 成 比 %	0.8%	5.8%	61.7%	5.1%	17.8%	6.3%	2.5%	100.0%

(定時制の課程)

市 町 名	バス	電車	自転車	原付50CC	2輪-125CC	徒歩・その他	四輪車	合 計
生 徒 数	0	2	12	3	0	7	3	27
構 成 比 %	0.0%	7.4%	44.5%	11.1%	0.0%	25.9%	11.1%	100.0%

(3) 生徒の年齢

(定時制の課程)

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳超	計
1 年	1	7										8
2 年			2									2
3 年				6	1						1	8
4 年					6	2			1			9
計	1	7	2	6	7	2	0	0	1	0	1	27

(4) 生徒の就業状況

(定時制の課程)

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分	建設	製造	卸小売	サービス業	各種学校	その他	無職	計
1 年				2			6	8
2 年				2				2
3 年				6		1	1	8
4 年	2			7				9
計	2	0	0	17	0	1	7	27

2 部(クラブ)の加入状況

(全日制の課程) (令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		15	9		24
男子	1 年	102	60	1	163
	2 年	86	41	33	160
	3 年	72	66	18	156
	計(A)	260	167	52	479
	構成比	54.3%	34.9%	10.8%	100.0%
女子	1 年	4	7	0	11
	2 年	3	10	1	14
	3 年	1	6	1	8
	計(B)	8	23	2	33
	構成比	24.2%	69.7%	6.1%	100.0%
合計	(A+B)	268	190	54	512
	構成比	52.4%	37.1%	10.5%	100.0%

(定時制の課程) (令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		3	0		3
男子	1 年	2	0	5	7
	2 年	0	0	2	2
	3 年	6	0	1	7
	4 年	4	0	5	9
	計(A)	12	0	13	25
	構成比	48.0%	0.0%	52.0%	100.0%
女子	1 年	0	0	1	1
	2 年	0	0	0	0
	3 年	0	0	1	1
	4 年	0	0	0	0
	計(B)	0	0	2	2
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	(A+B)	12	0	15	27
	構成比	44.4%	0.0%	55.6%	100.0%

□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和5年度)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計 金 額	契約金額			契約 締結 方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の 内容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 給食排水処理装置 点検業務委託	三友水処理(株)	円 244,200	円 244,200	円 0	円 244,200	随契	自 5. 4. 1 至 6. 3. 31	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 30 5. 9. 29 5. 10. 31 5. 11. 30 5. 12. 27 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 26 小計	円 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 20,350 244,200	給食排水 処理装置 点検業務	随契1号 (少額)
2	消防用設備等保守 点検業務委託	(株)藤興産	5,331,040	3,960,000	0	3,960,000	一般	自 5. 4. 1 至 6. 3. 31	6. 1. 22 6. 4. 26 小計	2,794,000 1,166,000 3,960,000	消防用設備 等保守点検 業務	沼津東高校 沼津西高校 沼津城北高校 沼津商業高校 沼津視覚特別 支援学校 沼津聴覚特別 支援学校 沼津特別支援学校
3	給食調理 (配膳) 業務委託	(株)ホーユー	15,428,220	15,400,000	0	15,400,000	一般	自 2. 8. 11 至 5. 7. 31	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 小計	(13,685,760) 428,560 428,560 428,560 428,560 1,714,240	給食調理 (配膳)業務	2長期
4	給食業務委託	(株)ホーユー	17,026,297	15,840,000	△ 15,688,827	151,173	一般	自 5. 8. 1 至 5. 9. 8	6. 3. 15	151,173	給食調理 (配膳)業務	5長期 契約解除・ 賠償請求へ公金振替
5	給食業務委託	(株)クリエイ ティブ	3,168,640	3,168,640	0	3,168,640	随契	自 5. 9. 25 至 6. 3. 15	5. 11. 30 5. 12. 26 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 26 小計	517,640 530,200 530,200 530,200 530,200 530,200 3,168,640	給食調理 (配膳)業務	随契5号 (緊急)
6	給食業務委託	(株)クリエイ ティブ	17,565,851	17,545,000		17,545,000	一般	自 6. 3. 1 至 8. 7. 31	6. 4. 26	605,000	給食調理 (配膳)業務	5長期
7	夜間定時制高等 学校校舎等管理 業務委託	エスピトーム (株)沼津支社	955,350	955,350		955,350	随契	自 5. 4. 5 至 6. 3. 29	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 5. 9. 29 5. 10. 31 5. 11. 30 5. 12. 26 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 26 小計	84,150 94,050 108,900 69,300 19,800 89,100 99,000 99,000 79,200 84,150 89,100 19,800 935,550	夜間定時制 高等学校校 舎等管理業 務	随契1号 (少額)
8	防鼠防虫業務委託	(株)三島美装	154,000	154,000	0	154,000	随契	自 5. 4. 4 至 6. 3. 31	5. 10. 25 6. 4. 26 小計	77,000 77,000 154,000	防鼠防虫業 務	随契1号 (少額)
9	エレベーター保守 点検業務委託	フジテック(株) 静岡支店	336,600	336,600	0	336,600	随契	自 5. 7. 1 至 6. 3. 31	5. 10. 25 6. 1. 25 6. 4. 25 小計	105,600 125,400 105,600 336,600	エレベーター 保守点検業務	随契1号 (少額)
10	定期点検外壁全面 打診調査業務委託	(有)一級建築士事務 所 アドス設計室	979,000	924,000	0	924,000	随契	自 5. 7. 10 至 5. 9. 29	5. 10. 25	924,000	外壁全面打 診調査	随契1号 (少額)
11	P C B濃度分析調 査業務委託	(株)エコアップ	206,800	123,200	△ 18,700	104,500	随契	自 5. 10. 20 至 5. 12. 20	5. 12. 27	104,500	P C B濃度 分析調査	随契1号 (少額)
12	産業廃棄物処理 委託	(株)富士興産	66,000	66,000	0	66,000	随契	自 5. 10. 20 至 5. 12. 26	5. 12. 18	66,000	産業廃棄物 処理	随契1号 (少額)
13	給食排水処理施設等汚泥 処分業務委託	クリーンサービ ス(株)	27. 5/kg	27. 5/kg	0	27. 5/kg	随契	自 6. 2. 5 至 6. 3. 28	6. 4. 1	103,125	給食排水処理施 設等汚泥処分	随契1号 (少額)
14	給食排水処理施設等清掃 業務及び汚泥収集運搬業 務委託	三友水処理(株)	140,800	134,200	0	134,200	随契	自 6. 2. 5 至 6. 3. 28	6. 4. 4	134,200	給食排水処理施 設等清掃及び汚 泥収集運搬	随契1号 (少額)
15	産業廃棄物収集・ 運搬委託	日本産業廃棄物 処理(株)	78,100	78,100	0	78,100	随契	自 6. 1. 9 至 6. 3. 29	6. 3. 5	78,100	産業廃棄物 (廃 液) 収集・運搬	随契1号 (少額)
16	産業廃棄物処分委 託	(株)太洋サービ ス	26,400	26,400	0	26,400	随契	自 6. 1. 9 至 6. 3. 29	6. 3. 8	26,400	産業廃棄物 (廃 液) 処分	随契1号 (少額)
17	産業廃棄物処分委 託	三光(株)	41,289	41,289	0	41,289	随契	自 6. 1. 9 至 6. 3. 29	6. 4. 22	41,289	産業廃棄物 (廃 液) 処分	随契1号 (少額)
18	産業廃棄物処理 委託	(株)富士興産	66,000	66,000	0	66,000	随契	自 6. 2. 1 至 6. 3. 29	6. 4. 22	66,000	産業廃棄物 処理	随契1号 (少額)
	事務関係計	18件								12,813,017		

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計 金 額	契約金額			契約 締結 方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の 内容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考 1	機械警備業務委託	セコム(株)		8,316,000	0	8,316,000		自 1.10. 1 至 6. 9. 30			校内機械 警備業務	沼津東高校
2	可燃物収集運搬処 理業務委託	(有)大真商会		運搬料26,180/回 処分料 6.82/Kg	0	運搬料26,180/回 処分料 6.82/Kg		自 5. 4.11 至 6. 3.31			可燃物収集運 搬処理業務	沼津城北高校
3	プール浄化装置保 守点検業務委託	三友水処理(株)		208,780	0	208,780		自 5. 4.13 至 5.11.30			プール浄化装 置保守点検業 務	沼津西高校
4	浄化槽保守点検業 務委託	三友水処理(株)		931,700	0	931,700		自 5. 4. 1 至 6. 3.31			浄化槽保守点 検業務	沼津東高校
5	自家用電気工作物 保安管理業務委託	(一財)関東電気 保安協会		1,598,850	0	1,598,850		自 5. 4. 1 至 6. 3.31			自家用電気 工作物保安 管理業務	沼津商業高校
6	建築基準法第12条 に基づく定期点検 業務委託	(有)一級建築士 事務所アドス設 計室		1,452,000	0	1,452,000		自 5. 7. 7 至 5.11.30			建築基準法第 12条に基づく 定期点検業務	沼津西高校
7	ガスヒートポンプ エアコン点検業務 委託	(株)ユアーズ静岡		787,490	0	787,490		自 5. 7. 1 至 5. 9.30			ガスヒートポ ンプエアコン 点検業務	沼津商業高校
	計	7件										

□□□□

負担金支出調

(令和5年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	第74回全国工業高等学校校長協会総会・研究協議会参加費	全国工業高等学校長協会	開催要項による	総会・研究協議会	円 5,000	5.4.24
2	令和5年度第70回全国定時制通信制高等学校校長会総会・研究協議会参加費	全国定時制通信制高等学校校長会	開催要項による	総会・研究協議会	1,000	5.5.8
3	令和5年度全国高等学校長協会第75回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催要項による	総会・研究協議会	2,000	5.5.9
4	日本工業化学教育研究会第71回全国大会参加費	日本工業化学教育研究会	開催要項による	研究協議会	6,000	5.6.20
5	令和5年度東日本建築教育研究夏期協議会参加費	東日本建築教育研究会	開催要項による	研究協議会	6,000	5.6.23
6	令和5年度第67回東日本高等学校土木教育研究会総会ならびに研究協議会参加費	東日本高等学校土木教育研究会	開催要項による	研究協議会	2,500	5.6.29
7	令和5年度全国公民科・社会科教育研究会全国研究大会参加費	全国高等学校長協会公民科・社会科教育研究会	開催要項による	研究協議会	2,500	5.6.30
8	令和5年度東海地区工業高等学校校長教育研究会総会・研究協議会参加費	東海地区工業高等学校校長教育研究会	開催要項による	研究協議会	2,000	5.7.6
9	令和5年度東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	開催要項による	研究協議会	2,000	5.7.6
10	令和5年祖第74回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会山梨大会参加費	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会	開催要項による	研究協議会	5,000	5.7.14
11	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(4月～6月分33名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	267,300	5.7.31
12	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料(4月～6月分3名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	24,300	5.7.31
13	令和5年度全国工業高等学校長協会第71号研究協議会高知大会参加費	全国工業高等学校長協会	開催要項による	研究協議会	6,000	5.8.2
14	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(4月～6月分438名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	13,008,600	5.8.17
15	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(7月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,900	5.8.28
16	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(7月～8月1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	19,800	5.9.19
17	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(7月～9月1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700	5.10.11
18	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(7月～9月1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	8,100	5.10.13
19	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(7月～11月431名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	21,334,500	5.10.31
20	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(7月～11月分33名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	432,000	5.10.31
21	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料(7月～11月分3名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	40,500	5.10.31
22	令和5年度東海地区機械教育研究会第53回研究協議会参加費	東海地区機械教育研究会	開催要項による	研究協議会	2,000	5.11.10
23	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(7月～11月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	5.11.14
24	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(11月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料を戻入する	△ 9,900	5.11.15

25	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (11月分1名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料を 戻入する	△ 2,700	5.11.22
26	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (12月～1月分1名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に 充てる	5,400	5.1.18
27	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (12月～3月分430名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に 充てる	17,028,000	6.1.31
28	高等学校等学び直し支援金	定時制高等学校授業料 (12月～3月分3名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に 充てる	32,400	6.1.31
29	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (12月～3月分30名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に 充てる	324,000	6.1.31
30	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (3月分1名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律外	高等学校に在籍する生徒の授業料に 充てる	△ 2,700	6.3.12
計		30件			52,640,700	

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	教育 管理費	令和5年度静岡県立沼津 工業高等学校第3棟向け 電話幹線ケーブル配線工 事	沼津市下香貫八重	円 572,000	円 547,800	円 0
2	教育 管理費	令和5年度静岡県立沼津 工業高等学校第2棟4階 視聴覚室雨漏り補修工事	沼津市下香貫八重	484,000	484,000	0
3	教育 管理費	令和5年度静岡県立沼津 工業高等学校電話交換機 等改修工事	沼津市下香貫八重	3,399,000	3,294,500	0
		小 計	3 件	4,455,000	4,326,300	0

工 事 調

(令和5年度)

額	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
計							
円 547,800	随契	(株)ミライト・ワン 沼津営業所	R 5.11.20 R 6. 1.23	円 547,800	電話端子盤から第3棟配線 盤までの電話幹線ケーブル 配線	—	随契1号(少額) R 5.11. 1令達 R 6. 2.14支払
484,000	随契	双葉化工 (株)	R 5.12. 5 R 6. 1.17	484,000	第2棟4階視聴覚室上屋上 部分の雨漏り補修 塗膜防水 65㎡	—	随契1号(少額) R 5.11.20令達 R 6. 2. 9支払
3,294,500	指名	東名電設 (株)	R 6. 2. 5 R 6. 3.25	3,294,500	電話交換機主装置及び多機 能電話機12台の交換	済	指名 R 6. 1. 9令達 R 6. 4.25支払
4,326,300				4,326,300			

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	教育 管理費	令和6年度静岡県立沼津 工業高等学校第2キュー ビクル内進相コンデンサ 更新工事	沼津市下香貫八重	円 891,000	円 858,000	円 0
		小 計	1 件	891,000	858,000	0

参 考

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	教育 管理費	令和6年度[第36-Z0325- 01号]沼津工業高等学校防 球ネット設置工事	沼津市下香貫八重	円 25,498,000	円 23,804,000	円 660,000
		小 計	1 件	25,498,000	23,804,000	660,000

工 事 調

(令和 6 年度)

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

額	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
計							
円 858,000	随契	(株) 長沢電機	R 6. 8. 28 R 6. 11. 29	円 858,000	第2キュービクル内高圧進相コンデンサ1台及び低圧進相コンデンサ3台の更新	—	随契1号(少額) R 6. 8. 6令達 R 6. 12. 16支払
858,000				858,000			

額	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
計							
円 24,464,000	一般	(株) スルガ	R 6. 9. 5 R 7. 3. 11	円 0	グラウンド北面(第4棟付近)に高さ12m、長さ32m(5スパン)の鉄柱防球ネットの新設	予	交通基盤部 沼津土木事務所 建築住宅課
24,464,000				0			

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年2月28日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	1本	円	円 1,500	6. 4. 1 9. 3. 31	西日本電信電話(株)	電気通信線路設備設置
2	建物	事務所建	沼津市下香貫八重 129-1	鉄筋コンクリート造4階建て		0.32 m ²		免除	2. 4. 1 7. 3. 31	沼津市長	同報無線 防災無線 受信機設置
3	土地	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	14.34 m ²		免除	2. 4. 1 7. 3. 31	沼津市長	防災倉庫設置
4	建物	事務所建	沼津市下香貫八重 129-1	鉄筋コンクリート造2階建て		18.4 m ²		免除	6. 4. 1 7. 3. 31	沼津工業高等学校 後援会会長	購買施設設置
5	建物	事務所建	沼津市下香貫八重 129-1	鉄骨コンクリート造4階建て		3.3 m ²		免除	6. 4. 1 7. 3. 31	沼津工業高等学校 後援会会長	事務補助員の補助業務
6	土地	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	6.2 m ²		免除	6. 4. 1 7. 3. 31	沼津工業高等学校 後援会会長	事務補助員の駐車場
7	土地	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	3.5 m ²		免除	2. 4. 1 7. 3. 31	沼津市長	避難地看板設置
8	建物	事務所建	沼津市下香貫八重 129-1	鉄筋コンクリート造4階建て		3.3 m ²		免除	4. 4. 1 7. 3. 31	沼津工業高等学校 PTA 会長	事務補助員の補助業務
9	土地	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	6.2 m ²		免除	4. 4. 1 7. 3. 31	沼津工業高等学校 PTA 会長	事務補助員の駐車場
10	建物	事務所建	沼津市下香貫八重 129-1	鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て		17.0 m ²		免除	6. 4. 1 7. 3. 31	沼津市長	災害用備蓄用品保管
11	建物	事務所縦	沼津市下香貫八重 129-1	鉄筋コンクリート造4階建て		0.00076 m ²		免除	4. 4. 1 7. 3. 31	静岡県総合教育センター所長	ハロー電話沼津利用者用
12	土地	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	2.0 m ²		493,666	4. 4. 1 7. 3. 31	サントリービバレッジソリューション(株)	自動販売機設置
13	建物	学校敷地	沼津市下香貫八重 129-1	学校敷地	学校敷地	9.0 m ²		免除	6. 4. 1 7. 3. 31	沼津工業高等学校 PTA 会長	弁当販売業務
			合計					495,166			

□□□□

職 員 調

(全日制)

(令和7年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校 長	鈴 木 広 隆	総 括	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
2	副 校 長	土 屋 佳 彦	総 括 補 助	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
3	教 頭	長 田 正 文	工 業	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
4	事 務 長	渡 邊 広 志	事 務 総 括	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
5	教 諭	田 中 慎 一 朗	国 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
6	教 諭	杉 本 悟 己	国 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
7	教 諭	原 智 之	国 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
8	教 諭	埜 村 厚 二	社 会	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
9	教 諭	磯 西 香 穂	社 会	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
10	教 諭	土 屋 将 平	数 学	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
11	教 諭	西 井 信 晴	数 学	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
12	教 諭	山 本 恵	数 学	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
13	教 諭	渡 邊 泰 明	理 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
14	教 諭	植 松 聖 陽	理 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
15	教 諭	長 野 裕 紀	理 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
16	教 諭	久 保 田 晋	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
17	教 諭	相 磯 武 仁	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
18	教 諭	小 澤 由 貴 子	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
19	教 諭	井 岡 大 和	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
20	教 諭	渡 邊 直 明	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
21	教 諭	臼 井 尚 江	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
22	教 諭	漆 畑 遥 佳	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
23	教 諭	橋 本 昇 磨	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
24	教 諭	長 谷 川 充 洋	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
25	教 諭	山 口 麻 希	家 庭	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
26	教 諭	勝 呂 昌 子	音 楽	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
27	教 諭	佐 藤 克 彦	工業(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
28	教 諭	安 達 佳 祐	工業(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
29	教 諭	坂 井 成 仁	工業(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
30	教 諭	原 田 和 真	工業(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
31	教 諭	齋 藤 一 孝	工業(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
32	教 諭	高 山 拓 朗	工業(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
33	教 諭	春 木 紀 広	工業(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
34	教 諭	小 川 和 裕	工業(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
35	教 諭	西 島 善 彰	工業(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
36	教 諭	篠 田 直 弥	工業(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
37	実 習 助 手	岩 間 美 智 子	工業(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
38	教 諭	川 口 司	工業(電子ロボット)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
39	教 諭	渡 邊 和 彦	工業(電子ロボット)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
40	教 諭	渡 邊 亨	工業(電子ロボット)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
41	教 諭	山 田 幸 宏	工業(電子ロボット)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
42	教 諭	三 浦 裕 和	工業(電子ロボット)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
43	実習助手	石 神 文 哉	工業(電子ロボット)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
44	教 諭	上 田 久 美 子	工業(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
45	教 諭	千 葉 健 寛	工業(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
46	教 諭	寺 井 賢 一	工業(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
47	教 諭	吉 田 健 二	工業(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
48	教 諭	阿 部 正 幸	工業(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
49	主任実習助手	原 賢 一	工業(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
50	教 諭	鈴 木 康 政	工業(都市環境)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
51	教 諭	千 葉 智 博	工業(都市環境)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
52	教 諭	高 橋 宏 明	工業(都市環境)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
53	教 諭	廣 瀬 徳 夫	工業(都市環境)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
54	教 諭	齋 藤 健	工業(環境化学)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
55	教 諭	佐 藤 富 美	工業(環境化学)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
56	教 諭	渡 邊 翔 太	工業(環境化学)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
57	養護教諭	山 本 沙 織	養 護	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
58	主 幹	長 屋 伸 彦	管財・人 事	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
59	主 査	横 山 か お る	会 計	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
60	主 任	齋 藤 千 尋	給 与	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
61	主 任	山 下 拓 也	管財・会 計	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
62	主任技能員	松 岡 徹	用 務	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
計 62 名		平均年数			□ 年 □ 月	

(定時制)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
63	教 頭	城 正 樹	総 括 補 助	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
64	教 諭	折 尾 和 彦	社 会	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
65	教 諭	今 野 真 之	数 学	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
66	教 諭	鈴 木 太 賀	理 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
67	教 諭	小 出 翔 太	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
68	教 諭	千 葉 祐 樹	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
69	教 諭	原 豊 彦	工業技術(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
70	教 諭	古 郡 広 将	工業技術(機械)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
71	教 諭	加 藤 浩	工業技術(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
72	教 諭	鈴 木 孝 宜	工業技術(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
73	教 諭	西 村 季 隻	工業技術(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
74	教 諭	小 柳 政 幸	工業技術(建築)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
75	主任実習助手	原 博 志	工業技術(電気)	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
76	養 護 教 諭	長 谷 川 聡 子	養 護	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
77	主 事	杉 山 莉 菜	事 務	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
計 15 名 平均年数				□ 年 □ 月		

(臨時・非常勤職員)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭(臨)	土井 有美子	数 学	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
2	教諭(臨)	上 原 茂	電 気	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
3	教諭(臨)	大 石 一 秀	機 械	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
4	養護教諭(臨)	湯 田 知 子	養 護	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
5	主事(臨)	山 口 香 奈	庶 務	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
6	A L T	ジャック・スレーター	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
7	会計年度任用職員	杉 山 幹 昌	数 学	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
8	会計年度任用職員	遠 藤 和 文	英 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
9	会計年度任用職員	長 谷 川 知 洋	美 術	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
10	会計年度任用職員	杉 本 美 保	家 庭	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
11	会計年度任用職員	佐 藤 年 一	電 気	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
12	会計年度任用職員	藤 川 俊 雄	電 子	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
13	会計年度任用職員	堀 井 一 男	建 築	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
14	会計年度任用職員	望 月 優	国 語	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
15	会計年度任用職員	渡 邊 秀 瞭	体 育	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
16	会計年度任用職員	滝 節 子	家 庭	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
17	会計年度任用職員	寺 岸 慎 一	機 械	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
18	会計年度任用職員	松 下 壽 夫	電 気	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
19	会計年度任用職員	吉 川 和 輝	電 気	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
20	会計年度任用職員	芹 澤 大 介	用 務	□ □ □ □	□ 年 □ 月	
21	会計年度任用職員	中 村 格 男	用 務	□ □ □ □	□ 年 □ 月	
22	会計年度任用職員	佐々木 宏美	スクールカウンセラー	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
23	会計年度任用職員	西 川 知 子	スクールカウンセラー	□ □ □ □	□ 年 □ 月	□□□□
24	学校医・健康管理医	勝 呂 弥 生	内 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	
25	学 校 医	平 川 博 秀	眼 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	
26	学 校 医	三 島 丈 和	耳 鼻 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	
27	学 校 医	颯 川 世	歯 科	□ □ □ □	□ 年 □ 月	
28	薬 剤 師	若 尾 直 司		□ □ □ □	□ 年 □ 月	
計 28 名			平均年数		□ 年 □ 月	

□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和 7 年 4 月 1 日現在)

年 齢	人 員	摘 要
2 0 歳未満	0 人	
2 0 歳以上 3 0 歳未満	10	
3 0 歳以上 4 0 歳未満	16	
4 0 歳以上 5 0 歳未満	9	
5 0 歳以上 5 6 歳未満	15	
5 6 歳以上 6 1 歳未満	19	
6 1 歳以上	8	再任用教諭 8 名
計	77	平均年齢 46歳 11月

健康 管理

1 令和 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 77人 職員数 77人
受 診 率	100.0 %
県平均受診率	100.0 %

(1) 未受診の理由

2 令和 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	1 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	22 人
D 2		要経過観察	26 人
D 3		医 療 不 要	25 人
区 分 者 計			74 人
未 区 分 者 数			3 人
合 計			77 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休	1人
イ 新規採用	1人
ウ 自己都合による未受診	1人
エ その他	人